

石川連協たより

J P 労組石川連協退職者の会

発行責任者 尾田 隆
編集責任者 串田 信行

石川連協退職者の会「第7回総会」

〈2021年8月22日(日) 13時30分～ 於：金沢勤労者プラザ〉

2020年度活動報告・2021年度年度活動計画（案）



I はじめに

1. 石川連協退職者の会が発足し7年が経過しました。連協・支部の活動は会議の定着や情報発行の定例化、創意工夫した親睦活動が行われるなど着実に前進してきたと言えます。一方、会員数は減少傾向に歯止めがかからず発足時に比べ20%を超える減少となっています。
2. コロナ禍により昨年以降、連協・支部は様々な取組みの延期・中止を余儀なくされました。拡大活動が低調となった要因とも言えます。しかし、現在はワクチン接種が進んでいます。状況が好転すれば、積極的に取り組みを再開・活性化していくこととします。
3. 今年6月、75歳以上の後期高齢者の医療費負担を1割から2割に引き上げる改正法が成立しています。2025年には「団塊の世代」800万人全員が75歳以上の後期高齢者となる超高齢社会が訪れます。
4. 衆議院選挙は任期満了となる今年10月までに行われます。J P 労組は来年7月（予想）の第26回参議院選挙（比例代表）に「しば慎一」中央副執行委員長を擁立します。連続す

る国政選挙は、超高齢化社会における社会保障制度（年金・医療・介護等）のあり方を問う選挙と言えます。

5. 安心・安全で希望の持てる社会をつくるため、衆院選における推薦候補と参院選での組織内候補「しば慎一」の勝利に向け総力を挙げることにします。また、選挙での取り組みを会員と触れ合う機会、現役組織と連携を深める場とも位置付け、活動の活性化と会員拡大につなげていくことにします。

Ⅱ 1年間を振り返って

1. 会員拡大の取り組み

- (1) 現在（2021年6月10日）の会員数は555名です。昨年の第6回総会において新規加入者を「会員数×8%」と設定しました。残念ながら新規加入者は10名にとどまり、死亡17名、退会者3名を上回れず10名の減少となりました。
- (2) コロナ禍により様々の活動を延期・中止したことで、拡大活動も停滞したと言えます。最も効果的と言える訪問呼び掛け活動を控えざるを得なかったのが大きな要因と言えます。
- (3) これまで北陸は退職後、再雇用・期間雇用等で働くJ P 組合員を協力会員としてきました。しかし、本年からの65歳定年延長を機に60歳以上の組合員も加え、協力会員の対象者とし、退職前に「協力会員兼正会員申込書」の記載をお願いすることとしました。まだ申込者は少数ですが継続して取り組んでいるところです。

2. 親睦と交流の取り組み

昨年総会でコロナ感染状況を判断し、石川連協「学習と交流の集い」の開催を検討すると提案しましたが中止としました。各支部においても多くの定例行事の開催を断念しています。

3. 情報の発行

今年度も四半期ごとに「石川連協たより」を発行し、「北陸退職者の会会報」との同時発送を行ってきました。活動の報告・周知と合わせ、コロナ禍における会員への激励文を発信してきました。

4. 会議の開催

連協幹事会の開催は4回を計画していましたが、全員を招集しての開催は前期の2回となりました。総会直前の幹事会は金沢地域の役員が協議した内容を全幹事に書面周知し、意見を求めながら活動を進めてきました。

5. 新慶弔制度のスタート

昨年の「第6回全国総会」で新慶弔制度のスタートが決定しました。石川連協は新制度に基づき、以下のとおり「組織慶弔会計」を運営していくことにします。

- | |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>①年会費2,500円（連協費1,000円、支部費1,000円、慶弔費500円）の内、連協費から100円を地方運営の「組織慶弔安定会計（新設）」へ拠出する。</p> <p>②今後、連協「組織慶弔会計」からの給付金は、喜寿・死亡の5,000円とする。</p> <p>※「長寿のお祝い」が新設され、毎年4月に年度内に米寿を迎える会員にカタログギフトが贈呈（経費はJ P 労組負担）されます。</p> |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

- ③100円拠出はスタート以降の5年間とし、連協「組織慶弔会計」が残高不足となった場合は地方の「組織慶弔安定会計」から助成金を要請する。
※近い将来に予想されていた「連協組織慶弔」破たんは、回避されたといえます。

6. 退職者連合の活動参加

例年、当会から多数が参加する石川県退職者連合が主催の「第20回グラウンドゴルフ大会」は昨年に引き続き中止となりました。また、石川県退職者連合が取り組む「竹林伐採ボランティア」（加賀市橋立自然公園）は、秋は実施されましたが春の筍掘りも兼ねた取り組みは中止となりました。石川県退職者連合へは坂本哲治（副会長）、串田信行（幹事）を派遣し高齢者運動の連携を深めてきました。

Ⅲ 2021年度の具体的な活動

1. 会員相互の「親睦と交流」

- (1) コロナウイルス感染状況とワクチン効果を判断し、「第6回交流と学習の集い」や「会員が集まり楽しむ」活動の開催を検討していくこととします。
- (2) 開催が決まれば『石川連協たより』の紙面を活用し周知・参加を呼びかけていくこととします。

2. 会員への「世話役活動」

中央幹事会はＪＰ労組と「生涯組合員制度」の構築を検討していくと提案しています。制度スタートのバックアップとして、会員サポート活動の前進を目指していくこととします。まずは会員宅訪問など、会員と触れ合う取り組みを定着させていくこととします。

3. 会員拡大の取り組み

- (1) 今年度は拡大目標を30名以上（会員数×5%以上）とします。拡大には役員が自信をもっての呼びかけることが必要であり大切と言えます。そのためにも「入会して良かった」と感じてもらえる組織・活動づくりを目指していきます。
- (2) この5年間における石川県内のＪＰ組合員の退職者は、約300名で入会者は約40名です。加入要請をしていない方が多数存在すると判断しています。
- (3) 役員・会員の知人にも未加入の方がいると思います。まず、支部役員が先頭になってこうした方々に加入呼びかけを行っていただくよう要請します。
- (4) 協力会員の方に退職前に正会員の加入申込書を記入していただく取り組みを開始しました。まだ申込者は僅かですが、会員拡大のメイン活動になるよう粘り強く取り組んでいくこととします。
- (5) 新規退職者や協力会員への加入呼びかけは、現役組織に依存するだけでなく共に取り組むとの意識が大切と言えます。退職者役員は現役役員と意思疎通を深める機会を積極的に築いていただくよう要請します。

4. 政治活動の取り組み

- (1) コロナ禍において、医療施設や高齢者施設の脆弱さが浮き彫りになりました。社会保障

制度の充実に向け、直前となった衆議院選挙そして来年7月（予定）の第26回参議院選挙には推薦候補の勝利に向け、全力で取り組むこととします。

- (2) 総選挙は10月までに行われます。ＪＰ労組は石川選挙区において、3区「近藤和也」、1区「荒井淳史」を推薦決定しています。石川県退職者連合とも連携し支援活動に取り組んでいくこととします。
- (3) ＪＰ労組は第26回参議院選挙（比例代表）に「しば慎一」中央副執行委員長を擁立します。勝利には現退が一体となり総力を挙げて取り組むことが必要です。
- (4) 退職者の会は、「しば慎一」後援会加入目標（会員×3人）の早期達成に取り組めます。その上で、来年以降は前回選挙で大きく減少した得票数の増加に向け取り組んでいくこととします。

5. 平和活動の取り組み

安心して暮らせる社会を継続・発展させるため、ＪＰ労組が取り組んでいる平和行動や退職者連合の平和活動には、積極的に参加していくこととします。

6. 退職者連合との連携

超高齢化社会の到来を迎え、安心安全な年金・医療・介護の社会保障制度の構築が必要と言えます。退職者連合と連携し諸課題の前進に向け取り組んでいくこととします。また、石川県退職者連合が主催するボランティア活動やレク活動に積極的に参加していきます。

7. 共済商品の加入促進

ＪＰ労組の助け合い制度である共済商品の加入促進に取り組んでいきます。連協・支部においては機会あるごとに共済商品説明会を開催し、加入継続と新規加入を呼びかけていくこととします。

8. 広報活動の取り組み

『石川連協たより』を活用し連協・支部活動の周知・報告を行っていきます。発行は年4回を基本とします。支部における情報の発行についても支援していくこととします。

9. 各種会議の開催

連協幹事会を年4回開催することとします。ＪＰ労組石川連協と協議し必要となった場合は適時開催することとします。石川連協退職者の会「第8回定期総会」は、2022年7月に開催することとします。

10. 連協「組織慶弔会計」の運営

- (1) 北陸地方「組織慶弔安定会計」に今後5年間、連協費1,000円から「会費納入数×100円」を拠出します。
- (2) 年会費2,500円の内、一人当たり500円を原資とした連協「組織慶弔会計」の運営は、喜寿・死亡の際5,000円を給付することとします。
- (3) 連協における「組織慶弔会計」が残高不足なった場合は、地方幹事会へ助成金の送金を要請することとします。